

## 冬の若手医師学生支援委員会の活動

若手医師学生委員会では、冬といえばポートフォリオ！ということで、専攻医向けの企画として11、12月でポートフォリオ検討会を行い、検討会を経て完成させたものを1月末のポートフォリオ発表会で専攻医の先生に発表してもらっております（いずれもオンラインで開催しました）。発表会では、小山裕基先生（手稲家庭医療クリニック）、前田和俊先生（向陽台ファミリークリニック）、横山誓也先生（倶知安厚生病院）に予防医学と健康増進、SDHの領域で事例発表頂き、いずれの先生も素晴らしい実践とポートフォリオでありました。専攻医の先生がポートフォリオを記載するきっかけになればと企画しておりますが、ポートフォリオ発表そのもの、また指導医の先生のコメントからも、自分にない視点が得られて私自身の刺激にもなっている次第です。コメンテーターとして参加頂いた加藤萌先生、佐藤健太先生、八嶋駿先生、未分化な健康問題についてのレクチャーも担当して頂いた茂又章徳先生にもこの場を借りてお礼申し上げます。

学生向け企画では、北大、旭川医大での学習会を行いました（札医大の報告は次号のお楽しみに！）。北大では小西徹夫先生（よつば家庭医療クリニック）に講師をして頂き、7人の学生さんが参加してくれました。研修やキャリア形成する上での心がまえ、患者中心の医療の方法や継続性から得られるやりがい、経営や運営力の大切さなどについてお話頂きました。学生さんからは「患者中心の医療の方法って時間がかかるのでは？」「経営はどのように学べばよいだろうか？」といった質問も飛び出し、盛り上がった次第です。旭川医大の報告は学生の木谷さんが記載してくれましたので、ここでバトンタッチします！

若手医師学生支援委員会 委員長 釧路協立病院 総合診療科 加藤聡一郎

## 旭川医大の報告

2026年1月21日、旭川医科大学にて「総合診療医から学ぼう！患者さんとのコミュニケーション」と題し、帯広協会病院総合診療科医師の杉原伸明先生をお招きして、PCCM（Patient-Centered Clinical Method：患者中心の医療）についての勉強会を開催しました。当日は旭川医科大学の学生7名（2年生3名、3年生1名、4年生2名、5年生1名）が参加しました。前半是对話型講義を通して、一人ひとり異なる物語を持つ患者に対して最適な医療を提供するために、PCCMの視

(次ページへ続く)



発行人

支部長 木佐 健悟 北海道ブロック支部事務局（市立美唄病院内）

TEL:0126-63-4171

mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

点が重要であることを学びました。医療者が疾患だけでなく、患者の背景や価値観に目を向けることの大切さについて理解を深めました。後半はAI模擬患者とのチャット形式による医療面接の実践を行いました。実践を通して、患者の訴えに十分耳を傾けながら、診断を考え、適切な対応を分かりやすく伝えることの難しさを実感しました。本勉強会を通じて、PCCMを実践するためには、患者に寄り添う姿勢と、正しい知識に基づいた最善の医療を提供する力の両方が不可欠であることを学びました。今回の学びは、今後の学修への大きなモチベーションとなりました。杉原伸明先生、ならびにご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

旭川医科大学医学部医学科4年 木谷悠乃

## 第12回北海道地方会開催予告

2026年6月27日（土）、札幌市かでの2・7で第12回北海道地方会を開催いたします。

「多職種で取り組む患者協働 ～Patient Engagement～」をテーマに贈ります。

参加費無料、現地開催のみで、濃密な交流を！第一報・抄録は3月上旬HP・ML公開。

### タイムテーブル

- 13:30 開会
- 13:40～14:00 定時総会
- 14:00～15:00 学術発表会（多職種歓迎）
- 15:10～16:40 企画セッション（並行）
- 16:55～18:05 基調講演
- 18:05 閉会・懇親会

### 企画セッション（15:10～16:40）

企画	タイトル・講師（抄録抜粋）	見どころ
講義	「いま知りたいウィメンズヘルス」 柴田綾子（淀川キリスト教病院）、 鈴木怜那（SRHR pharmacy PROject）、秋田恵菜（asai）	月経・ピル・緊急避妊の トピック+体験型啓発。 質疑でモヤモヤ解消！
シンポ	「患者協働」を組織や地域で実装するには？ 青木拓也（慈恵医大）、大島寿美子（北星学園大） ディスカッサント：川口篤也ほか多職種4名	研究・実践知見共有+討論。 組織文化化の道筋を探究。
WS	明日からやってみよう！ 外来・診察室でできる“ワンポイント・リハビリ” 小林英司、堀哲也、松崎由里子ほか理学療法士5名	現場即実践アドバイス演習。 身体機能困りごと対応を 底上げ！
カフェ	看護師部会PRESENTS「あなたのやりがい」話しませんか？ 大久保彩織、山崎礼子	お菓子・コーヒーでキャリア 語り合い。他職種視点で再発見。

基調講演

「患者との協働とPPI（患者・市民参画）の実現のために」

山口育子氏（COML理事長） 座長：実行委員長 田村英俊

闘病経験からPPI推進の具体策を事例満載で。



全国の皆様、北海道の多職種協働を体感ください！

最終案内5月、詳細HP確認を。ご参加お待ちしております！

日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部 支部長再任のご挨拶

JA北海道厚生連ニセコ羊蹄広域俱知安厚生病院 総合診療科 木佐 健悟

2026年2月24日に結果が発表された2026・2027年度 理事選出選挙により、北海道ブロックの地域票から選出され、理事に再任されました。今回の選挙で北海道ブロックから選出された理事での話し合いの結果、私が再度北海道ブロック支部長を務めることとなりました。改めまして、これから2年間よろしくお願いいたします。

最近の北海道ブロック支部の大きな話題は何と言っても2025年6月20日から22日に第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（通称JPCA2025北海道大会）を北海道で開催したことです。私が大会長を務めることとなり、多くのブロック支部の会の方にお世話になりました。今回の学術大会を機に北海道内でプライマリ・ケアに新たに関心を持っていただいた方も多くいらっしゃると思いますし、新たなつながりもできたことと思います。北海道でもプライマリ・ケアに関わるいろいろな立場の方に楽しみながら参加してもらえようブロック支部活動を進めて参ります。（なお、JPCA2025のこぼれ話？を「ザ・大会の裏側！」として2025年9月発行のニュースレター46号に掲載しております。まだご覧になっていない方はぜひご覧ください。）

ブロック支部内での動きとしては、薬剤師部会に続いて、2025年看護師部会を立ち上げました。また2026年には災害医療システム委員会を設置し、日ごろの災害への備えについても検討していきます。

2026年4月から、ブロック支部の役員を選出も行います。代議員の中から幹事15名・監事2名を選出し、新しい支部役員の皆様に協力していただきながら支部を運営していきます。年に3回、土曜の午後に幹事会（オンライン参加可能）を開催し、支部の活動の方針を決めています。また、支部の行事や活動について役割分担をお願いすることもあります。幹事は再任も可能ですが、様々な意見、立場の方にも支部活動に関わっていただきたいので、新しい方の参加も歓迎します。

北海道内でもプライマリ・ケアに期待される役割は大きいものの、会員数も微増にとどまり、総合診療・家庭医療を目指す専攻医も大きな伸びを示している訳では無いですが、ブロック支部では、会員の学びの機会や仲間づくりの場の提供、この領域に関心を持ってきている若手の医

(次のページへ)



療職・医療系学生の支援を中心に活動することで、北海道のプライマリ・ケアに貢献できればと考えております。皆様、お誘い合わせの上、ブロック支部行事にご参加いただきますようお願いいたします。

---

## 支部ホームページリニューアルおよびURL変更のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、北海道ブロック支部のホームページをリニューアルいたしました。それに伴い、URLが変更となっております。

新ホームページURL ⇒ <https://primarycare-hokkaido.com>

新しいホームページでは、情報の見やすさ・探しやすさを向上させ、今後の更新やご案内をより円滑に行えるよう構成を刷新しております。今後とも、北海道ブロック支部のホームページもご活用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。


---

## 退任挨拶

市立美唄病院の高倉です。私ことですが、2016年9月より務めてまいりました日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部の事務局長を、2026年3月末日をもちまして退任することとなりました。

町立松前病院から市立美唄病院に支部事務局が移管された当初は、ブロック支部の活動内容を十分に理解しないまま事務局を担うこととなり不安も大きかったのですが、初代支部長の木村眞司先生、第2代支部長の木佐健悟先生をはじめ、役員の方々から温かいご指導とご支援を賜り、この10年間を無事務め上げることができました。また、北海道地方会や北海道プライマリ・ケアフォーラム、道内3医育大学の学生が参加するプライマリ・ケアキャンプ（現在は休止）など、支部の行事を通じて多くの皆さまと出会い、温かく接していただいたことは、私にとって大きな励みであり、かけがえのない経験となりました。心より感謝申し上げます。併せて、3月31日の同日をもちまして、50年間の公務員生活も卒業いたします。



 退職後は、これまで十分に時間を割けなかった趣味のゴルフやDIYをゆっくりと楽しみながら、穏やかな日常を過ごすつもりでおります。ブロック支部の事務局はこれまでと同様に市立美唄病院が引き続き担当いたします。今後とも変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、ブロック支部のさらなる発展と、会員皆さまのご健勝ならびにご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2026年3月吉日

---

## 北海道ブロック支部 広報委員会 編集後記

広報担当の小山裕基（手稲家庭医療クリニック 専攻医3年目）です。私は旭川医大2年生の時に、北海道支部主催の木村先生の講演会をお聞きし、家庭医療に興味を持ちました。その翌年の3月には、美唄で開催されたプライマリ・ケアキャンプに参加し、高倉さんをはじめ美唄の皆さまに大変温かく迎えていただきました。そこから家庭医の道を志すようになり、家庭医療専攻医としての今に至っています。高倉さん、長年のご尽力本当にありがとうございました。また近々、美唄焼鳥を片手にお酒を飲みましょう！

---